

桜建デザイン・コンクール2016

雪蛍

日本の四季が織りなす景観は、
とても豊かな空間を作り出してくれる。

雪国の冬景色を切り取ってみた。

積もった雪が作る造形美にハッと目が奪われてしまうことしばしばである。

自然のまままでの四季の変幻：時に神秘的でさえある。

また、降り積もる雪が人工物とコラボレーションした時にも目を見張るものがある。

一方、雪が建築物に与える負荷の一つに積雪荷重がある。

雪下ろしは雪国の風物詩でもある。

しかし、雪による災害、雪に対する苦労は並大抵ではない。

雪下ろし時期を確定するのに精神的負荷が大きいのである。

適時に雪下ろし作業が出来たら越したことはない。

場所と雪質で荷重密度はまちまちである。

正確の雪荷重から雪下ろし時期を知らせる計測器があればうれしい。

雪国の景観と共生するアート性のある計測器があればもっといい。

簡単に運搬・組み立てができればさらにいい。

建築は強用美の総合芸術（ヴィトルヴィウス）と言われている。

「雪蛍」は、単に雪下ろし時期を知らせるセンサーではない。

ストラクチャー（強）+アート（美）+ファンクション（用）機能に

さらに雪国人のセンス（感性）を合わせ持った作品である。

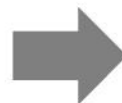
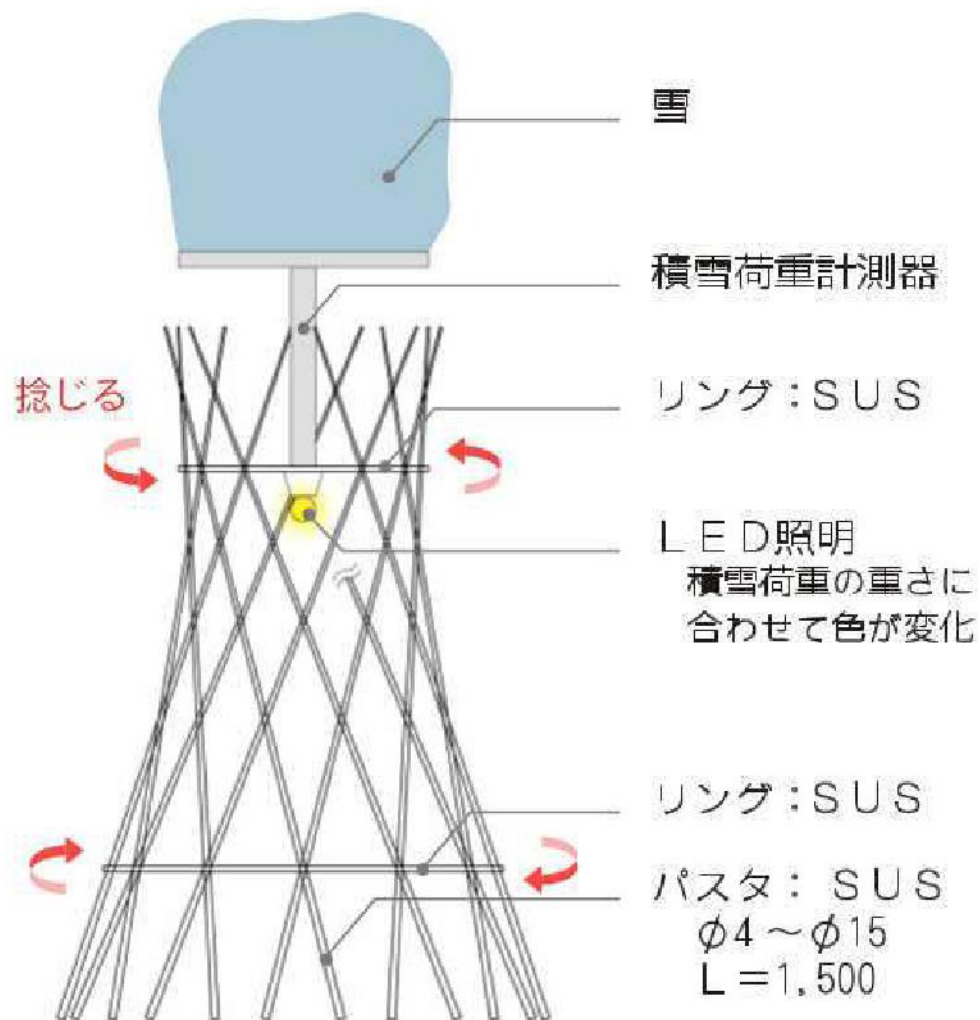


雪がデザインするユーモア溢れる造形

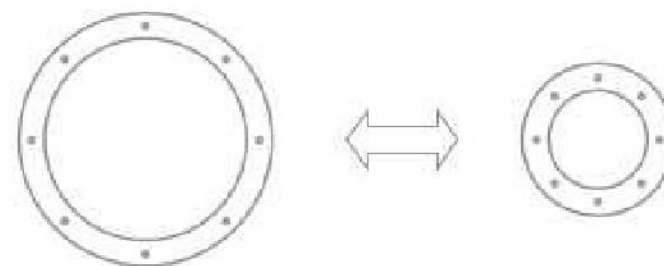


ストラクチャルデザイン と 積雪荷重計測器

リングの組み合わせ



リングの径



リングの孔径

